

久留米

〔December 22, 2016〕

高専通信

第83号

久留米工業高等専門学校
〒830-8555 久留米市小森野1-1-1
TEL:0942-35-9300
<http://www.kurume-nct.ac.jp/>

地域から学ぶ

旭町の職員宿舎に住んでいる。本校へは、車で5分、歩いて20分位で着く。歩けば適度な運動になると思い、新年度に入り徒歩通勤を目指したが、直後に熊本地震があり、車をできるだけ近くに置いておかねばとの思いから、残念ながら車での通勤に戻ってしまった。

だが、休日には、プリチストンスポーツアリーナの南側の道から医大通りに出て、(株)プリチストンの団地宿舎や久留米大学病院沿いを北上し、小森野橋の手前を筑後川の河川敷まで下りて、広く豊かな川沿いの空気を胸一杯吸った後、プリチストン久留米工場と久留米城(篠山城)跡の間を上がって、さらにプリチストン通りに出て、宿舎までの道を時折歩く。

本年5月、(社)日本歯車工業会と本校との間に連携・協力協定が締結された。本校のものづくり教育センターには、年季の入ったホブ盤が数台あり、まだ元気に稼働している。歯車は、歯車の精密工作法の権威であられた新制初代校長和栗明先生のご研究もあり、本校の誇る伝承技術の一つとなっている。ホブ盤他の機材を活用して、歯車工業会のギャカレッジ(歯車技術講座)の基礎実習が毎年開催されている。また、本校は、和栗先生の学統を受け継ぐ教職員研究スタッフを抱えている。久留米市には歯車専門メーカーの(株)古賀歯車製作所があり、同社はその技術の精神を東洋のエジソンと呼ばれた久留米出身の発明家「からくり儀右衛門」こと、田中久重(東芝の創業者の一人)から受け継いでいるとしている。因みに、田中は、15歳の折に10歳ほど年長の久留米餅の創始者井上伝に絵織技術についての助言を行ったと言われている。

本年7月、本校は、(社)日本ゴム協会九州支部との連携・協力協定を調印した。久留米には、グローバル企業の(株)プリチストンの他、(株)アサヒコーポレーションや(株)ムーンスター、日米ゴム(株)等ゴム関連の有力企業が相当数あり、ゴム製品の製造は久留米の基幹産業の一つとなっている。ゴムに関する教育・研究は、久留米市に所在する本校がとりわけ力を入れてきた分野で、本校の大きな特色をなしている。本校の前



久留米工業高等専門学校
校長 三川 譲二

身の久留米高等工業学校(旧制高専)は、1939(昭和14)年、日本ゴム(株)の経営者石橋徳次郎氏(当時久留米市名誉市長)の敷地と建設資金の寄付を受け、日本ゴム・プリチストーンタイヤの青年学校を仮校舎として出発している。また、旧制高専には、戦前の昭和19年から7年間ゴム工業科が設置されていた。本校は、現在もゴム関連の研究・教育を行う教職員スタッフと研究機材を有し、研究成果も着実に上げている。

本年12月には、久留米商工会議所と連携・協力協定を締結する。久留米商工会議所は、本年8月、久留米創生特別委員会を発足させた。小職もその委員の一人として名を連ねている。創生の主なテーマは、医療・介護、健康、食農などの「ライフイノベーション」である。周知の通り、久留米市は、全国有数の「医療のまち」であり、全市を挙げて、市民の医療・介護、健康などの充実に取り組んでいる。

久留米市の医療には、久留米大学医学部・病院の存在が大きな役割を果たしている。久留米大学の前身は、昭和3年に創設された九州医学専門学校である。同校の久留米誘致を決定付けたのは、足袋の仕立てや地下足袋の製造・販売で財をなした石橋徳次郎・正二郎氏兄弟による学校用地・建設資金の寄付であったことは広く知られている。「医療のまち」久留米はゴム製造に由来していると言える。本校も、ゴムと並んで、医療・介護、健康(食品)等を研究対象としている教員・技術職員を揃えている。地域・社会のニーズに対応したものと言えよう。

11月の中旬に久留米市美術館(旧石橋美術館)の開館式があり、併せて新設の石橋正二郎記念館を参観した。それを機会に、石橋正二郎氏の自伝『私の歩み』を拜読した。歯車、ゴム、医療・介護、健康など久留米の地域色ある産業の発展が、井上伝、田中久重、石橋正二郎等の先人達による技術と経営の革新によってもたらされてきたということ学んだ。地域の歴史にゆかりの深い散歩道を辿りながら、これらの産業のイノベーションに対して久留米高専が果たすべき役割はどのようなものか、将来に思いを馳せている。

高専祭・体育祭

高専祭を終えて

高専祭実行委員長
電気電子工学科4年 内田 広夢

皆さん高専祭本当にお疲れさまでした。毎年雨に見舞われることの多かった高専祭ですが、今年度は絵にかいたような快晴で、心なしか例年以上に来場者の方が多かったのではないかと思います。

まず始めに、前夜祭文化祭ともに時間通りの進行ができず、たくさんのご迷惑おかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

私は1年生の頃より実行委員をやっております、長いこと内側から高専祭を見てきたわけですが、やっぱり高専祭っていいですね…バンドだったり、部活だったり、イベントだったり、出店だったり、すべてのものからみんなの久留米高専が大好きだって気持ちがあふれていて、みんなが笑顔で楽しそうで、そんなお祭りを運営できていることを本当に光栄に思います。

実行委員会最後の年に委員長をやらせてもらったわけですが、今さらになって自分は多くの人に助けられていたのだと気づきました。学生課の方や先生方、数々のサポートをしてもらいました。実行委員のみんなは本当にいい子たちで、こんな僕を信じて最後までついてきてくれました。そしてなによりも学生の皆さんです。出店や各種ステージイベントで盛り上げていただきましたし、時には応援や励ましの言葉をたくさんいただきました。この文章を書いている今でも思いだして泣きそうなほど皆さん優しく、フィナーレでは思いがけず泣いてしまいまして、胸上げされたのは一生の思い出になること間違いなしです。

フィナーレでも言いましたが、高専に入って本当によかった。そして実行委員に入って本当によかったと終わってしまった今しみじみと思います。写真を見ていると、どの写真のみんなもすごく楽しそうな顔で笑っている僕しかなくて、どんだけこいつは楽しかったんだよwwって思います。

最後になりますが、この4年間で僕は『本気』の大切さを知りました。手を抜けば楽ですが、終わった後に何も残りません。本気でやったからこそ泣いたり笑ったり、強く思い出に残ると思うのです。今回の高専祭あんまり楽しめなかったそのあなた!!来年こそは本気で高専祭にぶつかってみてください!!そうすれば新しい何かがあなを待っていると思います。



体育祭を終えて

体育祭実行委員長
機械工学科4年 中村 謙介

今年は天候に一切左右されることなく快晴の中、第五十一回目となる体育祭を行うことができました。

今年もやはりやってきました。開祭式になると何の打ち合わせもなく現れるアマチュア高専芸人。高専祭のイベント(女装コンテスト)で一躍有名人となったケンタウルスさん一行の活躍により例年まれに見ない実行委員泣かせの遅延で運営側は焦燥感に苛まれることとなりましたが、選手宣誓通りに体育祭を大いに盛り上げ、選手や来場者といった立場を超えた一体感を作り上げてくれました。

傍から見るとただのおふざけと見て取れる文化ですが、実際は体育祭をみんなが一つとなって楽しみ最後には学科、学年を超えて心をつにして感動を与えてくれるよき文化であり、これこそが高専健児と言われる由縁だと思います。

そして今年の高専生はいままでとは違いふざけの中にも何か真面目なところがあり、競技以外のところでは団長を中心として機敏に行動していただきました。そのため例年大幅に遅れる閉祭式を時間に余裕を持ってとり行うことができました。

私が在学している五年間の間だけでも驚くほどの時代の変遷を感じました。しかし久留米高専生の新しいことにチャレンジしそれを凌駕する力を看板、応援合戦、競技のお花摘みで垣間見たと思います。

そんな久留米高専の一大イベントの体育祭で一翼を担わせて頂けたこと、一緒に作りあげた笑いあり感動ありの思い出は一生の宝物です。本当にありがとうございました。

来賓の方をはじめとして、体育祭の開催にあたって協力して頂きました教職員の皆様、地域住民の皆様、学生の皆様方に体育祭実行委員一同心から感謝申し上げます。



工場見学旅行

大イベント

機械工学科4年 堺 大翔

夏休みが終わり、僕の嫌いな定期試験が始まりました。台風の影響でとても長く感じた期末試験。勉強をしている最中も「工場見学旅行行きたいな」とずっと思っていました。そんな試験を乗り越え待ちに待った高専生活の大イベント工場見学旅行が9月26日から始まりました。

僕たち機械工学科は関東方面へ行ってきました。4日間かけて、フジクラ佐倉事業所、三井製糖千葉工場、日産自動車追浜工場、リコー厚木事業所、東武鉄道南栗橋車両管区の5社を見学させていただきました。工場見学旅行初日、着慣れないスーツを装着し、少し緊張したまま出発しました。東京に着くころ、僕は耳抜きが苦手であるため、耳が痛くなりました。しかし、工場見学では普段聞くことができない内容や、とても面白い内容を聞くことができ、耳が痛かったことでさえ忘れてしまうほどでした。僕が一番、目に焼き付いた光景は日産自動車追浜工場の小型無人機が動いている光景です。これは、人が操作することなく、必要な道具や材料を適切なタイミングで持ってくるロボットのことで、一番関心を持ったことは、このロボットの開発には開発者のほかに従業員のアイデアが含まれているということです。見学をさせていただいた工場の従業員の方々全員に、ある共通点がありました。それは、自分たちがしている仕事に誇りを持っていることでした。お客さんの笑顔のためなどのそれぞれこだわりを持っており率先して仕事をしていました。僕も将来働くときは何かこだわりを持ちながら働きたいと思いました。進学を考えている僕にも今回の工場見学旅行はとても大きな収穫となりました。

また、工場の見学のほかにたくさんの思い出を作ることができました。想像以上に素晴らしいホテルではとても美味しい料理を食べることができ、大浴場で心身ともに休めることができました。築地で食べた海鮮丼、遠くから見たスカイツリー、美人が多く集まっていた浅草など振り返ればいい思い出です。今回学んだことをこれからの学生生活に生かしていきたいと思います。



工場見学旅行を終えて

電気電子工学科4年 立石 真優 長 佳蓉子

私たち電気電子工学科は工場見学旅行として、9月26日から9月30日に渡り関東地方へ行きました。東京を中心に様々な工場や観光地を周りましたが、特に印象に残った3つを紹介します。

東京工業大学の研究室見学では、3つの研究室を見学しました。その中で、太陽光発電に関する研究に興味を持ちました。私はインターンシップでソーラーフロンティア株式会社に行き、主な太陽電池の種類として、シリコン系太陽光パネルとCIS太陽光パネルがあることを学びました。東工大では、それぞれの太陽電池を実際に試作し、今後特に期待されるCIS太陽光パネルの高効率化に向け、材料や形成方法に関する研究を行っていました。インターンとの相乗効果で、太陽光発電に対する興味が深まりました。

富士通株式会社ではLED通信技術や無線タグによる位置検知システム、静脈認証など様々な最新技術を体験させて頂きました。LED通信技術は、色の三原色であるRGBそれぞれの強弱を変化させることで、光に情報を持たせる技術です。LEDを光らせることは高専の授業で行ったことがあるのですが、点灯させるのではない方法で情報をのせるというのは新しいと感じ、私もそんな発想を生み出せるようになりたいと思いました。様々な最新技術に触れ「技術の進歩が世の中を変えていく」ということが、実体験を通し理解することが出来ました。

花王株式会社では、シャンプーや洗剤等の衛生関連商品の製造過程を見学させていただきました。見学に際し、髪の毛の製品への付着を防ぐために、ヘアキャップの装着が義務付けられました。生産ラインに入るとき、まず目についたのはやや黄色がかったライトです。虫よけの特殊波長を発生するライトが、すべての出入り口付近に設置されており、害虫の侵入を防いでいました。さらに、可能な限り自動化を行い、人手を減らすことで、コストカットはもちろん、衛生面の向上も実現できることが分かりました。普段勉強している電気の分野とは少し距離のある工場見学でしたが、衛生商品を扱う上での徹底した生産管理を見学することができ、貴重な経験ができました。

工場を見学し色々なことを体験することで、就職や進学に向け、とても有意義な体験ができ、今後を見据えるきっかけとなりました。



工場見学旅行

工場見学旅行

制御情報工学科 4年 塩塚 大気

今回の文章は、久留米高専の1、2、3年生に向けて書きたいと思います。

私たちは、9月の終わりの秋休みを使って、4泊5日の工場見学旅行に行ってきました。行先は、学科ごとに異なりますが、私たち制御情報工学科は大阪、横浜、東京に行ってきました。

皆さんは、工場見学旅行にどんな期待を持っているでしょうか。いろいろな工場を見学して進路選択に活かしたい、同じクラスの仲間と楽しい思い出を作りたい、など様々だと思います。私自身も、出発前は勉強と思い出作りのどちらがメインなのかと思っていました。人によって感じ方は異なるかと思いますが、私はどちらも期待以上のものを得ることができたと思っています。

工場見学では、理化学研究所、三菱重工神戸造船所、ダイキン工業、横須賀NTTメディアインテリジェンス研究所、チームラボの5つに行ってきました。見学で私が感じたことは、高いレベルで仕事がしたいのならば、確かな知識と高い技術を身に付けなければならないということです。どの見学先も想像もできないような技術が使われており、そこで働くには今の自分ではとても足りないと感じました。高専生活はただ無気力に過ごすには長すぎると思います。低学年のうちから時間に余裕のある高専生活に自ら喝をいれてほしいと思います。名のある研究所や工場を見学させていただきましたが、すべてで高専の先輩が活躍されていました。このことは私たちにとって大きな励みとなりました。

旅行の面でも、非常に楽しい思い出が出来ました。東京での自由行動ではスカイツリーにのぼったり、渋谷で買い物をしたり、メイド喫茶に行ったりもしました。制御科の秋葉原での遭遇率は異常でした。さすがだと思いました。宿泊先のホテルでもトランプやゲームで盛り上がりました。みんな合言葉のように「優勝」と連呼していました。意味はよく分かりません。そんな意味のない会話でずっと盛り上が続け、次の日の見学先で寝ないように踏ん張ったのもいい思い出です。この点だけ真似はしないでください。

工場見学旅行は、とても楽しく意味のあるものでした。秋休みにわざわざ行きたくないと言っていた友人も今ではもう一度行きたいと言っています。きっと皆さんの期待にも応えてくれると思います。



工場見学旅行を終えて

生物応用化学科 4年 山崎 夏実

私たち生物応用化学科は、大阪と神戸に5日間、工場見学旅行に行きました。

旅行中、2日間をかけて日本触媒、森永乳業、大日精化、第一三共プロファーマの4つの工場の見学に行きました。今回の工場見学は、3年生までの日帰りの工場見学とは違い、就職活動や自分の将来を意識して参加するものとなりました。それぞれ短い時間の見学でしたが、今までのように話を聞くだけでは分からなかった会社の雰囲気や、仕事の様子を見ることが出来ました。特に印象に残っているのは大日精化の工場内の雰囲気です。久留米高専の卒業生や、その他にも多くの方のお話を聞くなかで、アットホームで仲が良く、良い雰囲気働いているという印象を受けました。今まで実際に見る機会がなかった会社の様子を見る事が出来た事は私にとって、とても良い刺激となりました。また、各工場には全国の高専の卒業生が多かったため、高専生の就職についてのお話や、就職してからの生活の様子について具体的なお話を聞くことが出来ました。これから就職について本格的に考えていく私たちにとって、この工場見学は会社で働くということを手近に感じる事のできた貴重な時間になったと思います。

この工場見学旅行は、入学してから3年半の間、ずっと楽しみにしていた行事でした。それが、始めてみると長く待ち望んでいた時間には想像も出来なかったくらい5日間があっという間で毎日が充実していました。5日間という短い時間のなか、普段の学校生活では分からなかった友達の新しい一面を見ることが出来たり、いつも以上に多くの友達の話を聞くことが出来たり、今まで以上にクラスの仲を深める事ができ、この工場見学旅行はとても有意義なものとなりました。残り1年と数カ月となった学生生活をクラスの皆でより楽しく、仲良く過ごす事のできる良いきっかけになったと思います。この経験を通して学んだことを忘れずに、改めて自分の進路について考え直していきたいと思っています。



工場見学旅行

工場見学旅行の感想

材料工学科 4年 梶木屋 翔磨

私たちは10月26日から10月30日の5日間工場見学旅行に行ってきました。場所は関東で、最初の3日間で神奈川県と東京都の工場や科学館を6か所見学しました。また、4日目には東京都内で自主研修を行い、最終日にはクラス全員で東京都のスカイツリーなどの名所を3か所観光しました。この5日間で私たちは普段はすることのできない貴重な体験を沢山することができました。さらに、友人との絆を深め大切な思い出を作ることができました。これよりクラスを代表して私の感想を述べさせていただきます。

私が1番心に残っている工場は初日に行ったANAの整備工場です。私は材料工学科に所属しているため、材料の分野に注目して見学を行いました。初めに工場の紹介があり、その後実際に整備工場の現場を見させていただいたのですが、私は工場の紹介の時に聞いた話にとっても興味を持ちました。その内容はボーイング787などの飛行機に使われている炭素繊維強化プラスチックについてです。この材料は軽量かつ強靱で、耐久性が高いという性質があります。この材料を使っている機体は軽量であるため大幅に燃料を削減できるというものでした。私は実際に強度部材の一部を見せていただき、従来のアルミニウム合金で作られているものと炭素繊維強化プラスチックが使われているものを比較することができたのですが、その薄さの違いに驚きました。そして、炭素繊維強化プラスチックのすさまじい強度と軽さを実感しました。軽いプラスチック系の材料が重い合金の代わりになると、とてもわくわくしました。改めて私も将来このようなすごい材料を作りたいとおもいました。

工場見学の他にも、東京観光の最中に芸能人を2人見つけたり、横浜のおしゃれな街や中華街を堪能したり、ディズニーランドを前に普段はおとなしい友人のはしゃぐ姿を見ることができたりと、とても楽しい思い出をたくさん作ることができました。この5日間の経験や思い出をこれからも大切にしていきたいと思いました。



専攻科インターンシップ

三隈川工場でのインターンシップ

機械・電気システム工学専攻 1年 秦 友眞

私は、大分県日田市にあるTDK株式会社三隈川工場で約3週間のインターンシップをさせて頂きました。TDK株式会社は、ソフトフェライトの工業化を目的とするベンチャー企業として1935年に設立され、現在ではフェライトを始めとする電子材料・電子部品の他、ビデオテープ、オーディオテープ、フロッピーディスクなど各種記録メディア(磁気、光など)の製造販売を行っている企業です。

私はそこで電池開発室に配属され、主にリチウムイオン電池の性能評価と新ラインの立ち上げに必要な運用規格検討の二つの実習を行いました。より詳しい実習内容は企業秘密の関係から明かすことはできませんが、普段の実習とは一味も二味も違うものでした。より良い製品が求められる昨今の社会情勢の中で日々困難に立ち向かう社員の方々の業務姿勢を拝見したり、就職活動についてのアドバイスをいただいたりして、刺激的な毎日を送ることができました。

将来、研究開発の仕事に就こうと考えている私にとってTDK株式会社で得られた経験はとても大きなものになったと思います。日々新しいことを考え続け、それを実践していく。それは言葉にしまえばとても単純で簡単なことですが、いざ行動に起こすと非常に難しいことである。と今回のインターンシップを通して学ぶことができました。トライアンドエラーを繰り返す毎日は苦しいが、それが実を結んだ時の感動は何事にも変えられないと社員の方が仰っているのを聞き、研究職のやりがいと苦悩を現場の生の声で聞くことができたことは非常に有意義な経験になりました。

今回のインターンシップで得られた知識や経験を忘れることなく、今後の学生生活および就職活動に活かしていきたいと考えています。今回、インターンシップ実習という貴重な機会を与えてくださったTDK株式会社三隈川工場の皆様、お忙しい中で私に優しく指導して下さり心から感謝しております。至らない点が多い私の指導に苦勞することもあったと思いますが、貴社で得られたことは私の人生にとって非常に大きなものです。この場をお借りして心から御礼申し上げます。

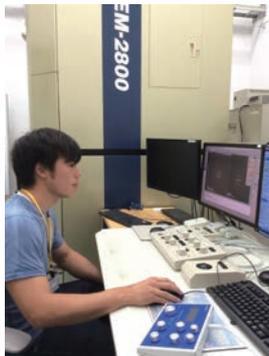


専攻科インターンシップ

物質・材料研究機構(NIMS)の
インターンシップを終えて

物質工学専攻1年 井手 泰徳

私は、茨城県つくば市の千現にある国立研究法人物質・材料研究機構(通称:NIMS)で約3週間のインターンシップをやらせて頂きました。NIMSは、物質・材料科学技術に関する基礎・基盤的研究開発のほか、外部研究者への共用やポストドク、NIMS連携専攻、連携大学院制度等を通じた大学院生や研修生を受入れ、研究者・技術者の養成を行っています。今回私は、電子顕微鏡による組織解析とそのための技術開発を行っている構造材料拠点 構造材料組織解析技術グループで実習させて頂きました。



純アルミニウムやアルミニウム合金は軽量で耐食性に優れており、鉄道車両や航空機など輸送機関に広く活用されています。しかし、さらなる用途拡大のためには、本金属のさらなる高強度化等の力学的特性の改善が不可欠となります。実習では、その研究の一部である本金属の強化法:高圧ねじり加工法(HPT)を使って結晶粒微細化を行い、種々の電子顕微鏡法を用いて組織観察及び解析を行いました。電子顕微鏡による研究結果に大きく左右する試験片作製をはじめ、高専では味わえない最先端の種々の電子顕微鏡を使用した組織観察は忘れることのできない体験となりました。今後の最先端電子顕微鏡の発展が楽しみです。

私の本科時の卒業研究のテーマが組織観察を主体とした研究であったため電子顕微鏡を使用する機会が多くなりました。顕微鏡を使って組織観察や解析をしていくにつれて、「組織を観る」ということに大きな魅力を感じました。そのため、今回のインターンシップで組織観察に関与しているグループの場に携われたことは毎日が新鮮と驚きで非常に楽しく、今後の進路について考える目的を達成するのに十分な経験と知識を得ることができました。また、外国人が多いため英語で話さなければならないという環境に立たされ、自分の英会話力の低さを改めて実感できたのと改善したいというモチベーションに繋がりました。

今回、インターンシップ実習という貴重な機会を与えてくださったNIMSの皆様へ心より感謝申し上げます。

学生会清掃活動

夏の清掃活動報告

電気電子工学科3年 瀧崎 壮磨

7月27日水曜日に夏の清掃活動を実施しました。暑い中ご協力いただいた学生・教職員の皆様のお蔭で無事に活動を終わることができました。本当にありがとうございました。

今回の清掃活動では、文化部室棟周辺を主とした構内のゴミ拾いやメインストリートその他通路の落ち葉の撤去、バイク駐輪場の砂利の撤去、放置自転車の移動、前回の春の清掃活動からは構内各所の放置傘の回収も行い、持ち主が見つからなかった傘については傘ステーション用の傘へと再利用しました。また、学外では高専付近の団地周辺、久留米高専～西鉄宮の陣駅間の農道、西鉄久留米駅付近の一番街のゴミ拾いを行いました。

私がこの活動を取り仕切る役に就いてこれが2度目の活動となりましたが、やはり大人数の学生に指示を出すということの難しさを毎回痛感させられます。しかしながら、このような機会は滅多に得られないものだと考えており、この役に就けたことを非常にありがたく思っています。お陰様で回数を重ねるたびに少しずつではありますが上手く指示を出せているような手応えを感じています。

私たちは何故、清掃活動を行うのでしょうか?「毎年やっているから」、「強制されているから」と受動的な理由であるべきではないと私は考えます。私は1年生の頃からこの活動に参加していましたが、清掃活動が終わった後の構内の風景はいつもと変わらないように見えて確かに何か違って見えました。そして活動を終わると必ず何かしらの達成感が残っていました。この活動に参加したことのない学生の皆さんにも是非この感覚を味わってほしいのです。この達成感のためにほんの2時間だけ、使ってみませんか?

次回の清掃活動は3月の終わりごろに予定しています。夏の清掃活動は気温が高く、暑い中での活動ですが、この時期は比較的過ごしやすい気候となりますのでおすすめです。たくさんの方の参加をお待ちしています。



九州沖縄地区女子学生交流会

女子学生交流会に参加して

生物応用化学科4年 花田 菜穂子

夏休みの終わりごろ、佐賀県波戸岬少年自然の家にて一泊二日の『九州沖縄地区高専 女子学生交流会』が行われ、参加しました。今回の交流会には、久留米高専、有明高専、北九州高専、佐世保高専、沖縄高専の女子学生が集まりました。

交流会の一日目は、アイスブレイクと各高専の行事や女子学生の活動の発表を行いました。アイスブレイクとは、初対面の人同士が緊張をほぐすためにする簡単なゲームのことです。アイスブレイクは、緊張をほぐすだけでなく、みんなの名前を覚えるのにも効果的です。私たちは、このアイスブレイクをすることで、一泊二日という短い時間の中でも、すぐに打ち解けることができました。アイスブレイクのあとは、それぞれで準備したパワーポイント資料で発表をしました。発表をして久留米高専にしかない行事だと気付いたのは、前夜祭の花火大会と竹取りと高専健児です！また、久留米高専にはなく、取り入れたいと感じたのは、女子学生の活動をもっと増やすことです。私が思い浮かぶ限りでは、現在、久留米高専では豚汁づくりとクラスマッチくらいしかないと思います。しかし、ほかの高専では、女子中学生向けに高専女子の学生生活を話すイベントを行ったり、OGを招いたキャリア講習会や体験教室を行ったり…高専では数少ない女子学生を活かした活動がたくさん行われていることを知りました。このような取り組みを、久留米高専でもすることで高専女子のさらなる増加や意識の向上が期待できると思いました。

交流会の二日目は、高専をもっと地域の方々や中学生に知ってもらうために、高専同士の連携活動の実現化に向けて、意見交流会をしました。意見交流会では、今ならではのSNSを利用した高専のPRホームページや、お互いの活動を報告し合うための方法などの意見が出ました。また、高専入学のきっかけが親戚からのおすすめなどが多く、地元の中学生でさえも高専のことを知らないということを知りました。

これからはこの経験を活かして、女子高専の活動を増やしたいと思いました。



学生寮行事

寮の行事報告

寮生会広報委員長 山下 大晴

料理教室

10月1日(土曜日)13時30分～15時、学生寮食堂にて、料理教室を開催しました。20名の寮生が、日頃から食事を提供してくださっている株式会社魚国総本社九州支社さんの指導の下、お菓子作りに挑戦しました。寮生たちは5人1組となり、フレンチトーストやパウンドケーキなど4種類のお菓子を作りました。普段から料理をする人もしない人も、みんなで協力して楽しそうに参加していました。できたお菓子は、みんなでおいしく食べ、参加した寮生は、大いに満足したようです。



防災避難訓練

10月12日(水曜日)16時、中川消防隊長(材料工学科4年)の合図とともに、筑水寮3階補食室にて火災が発生したという想定のもとで防災避難訓練を実施しました。訓練を通じて、火災時における消火活動や避難経路の確認を行いました。その後、今回の訓練に協力してくださった久留米市消防署員の指導の下、実際の機器を用いて放水訓練ならびに消火訓練を体験しました。参加した寮生たちは消防署員の話真剣に聞き、防災に対して意識を高める良い機会となりました。



非常食シミュレーション

10月12日(水曜日)の昼休み、放課後の避難訓練に先立って、寮生は通常の昼食の代わりに非常食を食べました。レトルトカレーや水で戻した炊き込みご飯など、非常時を想定したものでした。非常食シミュレーションを通じて、いつくるかわからない非常事態に対する寮生たちの心構えが少し変わったようです。



教職員表彰者・高専体育大会優秀者

国立高等専門学校教員顕彰分野別優秀賞を受賞して 制御情報工学科教授 黒木 祥光

平成27年度教員顕彰の一般部門、学生生活指導部門にて分野別優秀賞を受賞しました。顕彰題目は「プロコン指導と学生の研究活動を通じた高専教育の高度化及びグローバル化」です。プログラミングラボ部員を中心とする卒業生の皆さんに賞を頂いたようで、面はゆく思っています。

私と高専プロコンとの付き合いは平成14年に始まります。当時3Sの学生だった杉本憲治郎君(現早大助手)と二人三脚で、技術伝承を行う組織作りを目標に愛好会を設立しました。当時は活動する部屋も無く、私の教員室に机や椅子を持ち込み、一緒に勉強したことを覚えています。杉本君に続く後輩たち、紙幅の都合で紹介できないのが残念ではありますが、下級生の指導を続けてくれたのが、今の活躍の要因でしょう。

研究活動では、優秀な成績を残した部員、および彼らに誘われた成績優秀な学生が私の研究室を選んでくれました。そのお陰で、学会発表に値する卒業論文を多数残すことができました。専攻科に進学した学生が卒業論文を英訳し、共著として国際会議に投稿する流れができており、近年では専攻科生全員が海外の国際会議で発表する機会を得ています。

平成24年度に国立高専機構在外研究員(区分B:協定校派遣)でタイのバンコクにあるモンクット王工科大学ラカバン(KMITL)に派遣されたこと、同年に始まった9高専連携事業をきっかけに国際交流に関する仕事に携わり、多数の受入プログラムを企画してきました。産業界のグローバル化は誰もが認識することだと思いますが、個人的にはグローバル化した社会でも活躍できる技術力の向上が最優先で、そのためには英語で書かれ技術文書を理解でき、自身の成果を英語で発表できる、ということが重要だと考えています。KMITLはタイ有数の理工系大学ですので、技術を学ぶ同じ学生として、母語でない英語を通じて互いに苦労しながら会話をすることにより、英語学習の重要性や異文化について気付く機会を学生に与えることができたように思います。

以上、受賞に至った経緯を私なりに振り返りましたが、最近、学会活動や高専機構の共同教育、高専プロコン委員など、学外での仕事が増え、学生と接する機会が減っているような気がしていました。教員の最大の喜びは学生の成長を見守っていくことだと思いますので、これからも学生と共に頑張っていこうと気持ちを新たにしました次第です。



全国高専大会優勝報告

バレーボール部副部長 制御情報工学科4年 平嶋 莉奈

今年、私達女子バレー部は久留米高専女子バレー部史上初めての九州沖縄地区高専大会優勝、そして全国高専大会優勝という結果を納めることが出来ました。この2大会について女子バレー部を代表して報告したいと思います。

7月末に九州沖縄地区高専大会に出場しました。1年前の同大会では決勝で、佐世保高専に逆転負けという結果でした。それから、部員一人一人がバレーに対する取り組み姿勢を見直し、定期的にチームミーティングを重ね、練習試合を増やして今年の夏の大会に挑みました。今年も決勝戦で佐世保高専と当たりました。途中まで去年と全く同じ流れで、応援にきて下さっていた方々は去年の逆転負けがよぎったそうです。結果は3セット目の後半で逆転し、初優勝することができました。

8月に九州沖縄地区代表として出場した全国高専大会では、予選リーグを勝ち抜き決勝リーグへと進みました。決勝リーグで戦ったのは、昨年の優勝校である松江高専と準優勝校である鶴岡高専でした。両校とも初対決であったので1年間やってきたことだけを信じて全力で挑みました。その結果、両校ともストレート勝ちで初優勝を飾ることができました。

最後になりましたが応援してくださっていた皆さんありがとうございました。来年の二連覇を目標にこれからも女子バレー部みんなで頑張っていきます！



3度目の全国大会

水泳部 制御情報工学科3年 藤村 統太

私は8月に富山で行われた全国高専大会の水泳競技に出場しました。3年目となった今年は400メートル自由形で2位という結果でした。去年は同じ種目で優勝していたので優勝できなくて悔しかったけれど、表彰台に乗れたのでうれしかったです。また、200メートル自由形でも決勝に進出することができ、全体的にいい結果ではなかったのではないかと思います。ほかの高専の人、特に九州の高専の人ととても仲良くなれたのでこれからももっと交流を深めていきたいなと思いました。今回は富山で開催されたので、新幹線や特急電車などを使ってかなり時間がかかり疲れましたが、現地のおいしいものをたくさん食べることができて幸せでした。来年は、関東地方で開催されるのでまたおいしいものを食べるために、九州大会でいい結果を出して、全国大会に出場できるように頑張っていきます。応援してくださった皆さんありがとうございました。

九州沖縄地区高専大会優勝報告

バレーボール部部長 制御情報工学科5年 徳丸 大和

僕たち男子バレーボール部は夏に行われた九州沖縄地区高専大会で優勝することができました。

僕は部長でした。僕は誰がどう見ても人をまとめるような人間ではないので、僕が部長をやることはないと思っていました。しかし5年生が自分1人でしたので、部長をすることになりました。

いざやってみると、人をまとめることの難しさ、ポジションや練習メニューを考えることの難しさ、気軽に意見を言い合える同学年がいないことの辛さを感じました。それに1人ですべてを考えようとしていたので苦悩の日々でした。しかし、それも後輩たちが救ってくれました。明るくて大きく声を出してくれる後輩、先輩の僕にもグイグイ意見をしてくれる後輩、面白い後輩、個性の違うみんなに支えられ、自然と良いチームになっていきました。

とても大変だったけど、充実していたし、良い経験になりました。バレーの実力的にも人間的にも優れた後輩を持って幸せです。後輩たちや顧問の先生方には感謝しかありません。来年はぜひ全国優勝してもらいたいです。



各種コンテスト優勝者

SuperCon2016プログラミングラボ部

プログラミングラボ部前部長
制御情報工学科3年 菅野 暁

8月に開催されたSuperCon2016に、3Sの前田君と1Sの榎原君とチームを組んで出場し、優勝しました。

このコンテストは東工大や阪大のスパコンを使ったプログラミングコンテストです。参加者は4日間同じ部屋で同じ問題に取り組み続け、自分たちのチームが書いたプログラムがどれだけ良い答えを出せるかを競います。例えば、落ち物パズルゲームのAIを作る問題だったことがあります。

今年は東工大のスパコンSUBAMEを使う回で、僕たちは阪大の会場から参加しました。去年は駒場高校に敗れ準優勝だったので、今年は優勝しようと前々から前田君と話していました。個々が迷走してしまい力を活かせなかったという去年の反省を活かし、チームメンバーそれぞれがどのような役割を担当するかを事前に話し合い、コンテスト中は互いに状況を確認し合うことを徹底しました。それが幸いして、それぞれの書いたプログラムをスムーズに1つにまとめたり、問題点を指摘し合ったりすることができました。他のチームがやらなかった大胆な戦法を実行できたのも、チーム内で意思の疎通が取れていたからだと思います。僕にとっては3年目で最後のSuperConだったので自分への大きな期待があり、優勝できて正直ほっとした気持ちでした。

ところで、プログラミングコンテストは高専生の領分という感じがするかもしれませんが、実はそんなことはなく、学力の高さで全国的に有名な高校のプログラマーが、プログラミング能力においても優れているという傾向があります。僕より強い中学生などが国内にいくらでもいます。上には上がいるということ日々感じていて、努力を惜しまない人間になりたいと思っています。

これは余談ですが、阪大の学食はおいしいのでおすすめです。



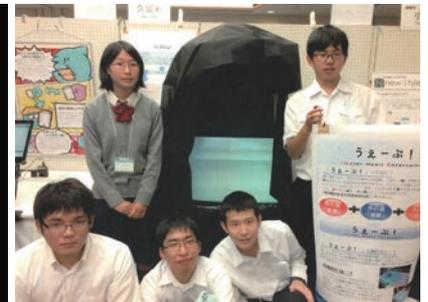
高専プロコン参加記

プログラミング部部長 制御情報工学科3年 三田 皓介

10月に開催された高専プロコン本選の自由部門にて、優秀賞という準優勝にあたる賞を受賞しました。

高専プロコンの自由部門とは、全国の高専生が、最大5人でチームを作り、自由なテーマで作品を作ってプログラミング技術とアイデアの良さを競う大会です。

僕は、同じ部活の人と5人でチームを組み、「うゑーぶ！-Water Music Entertain-」という、水に触れて波紋を作ると、綺麗な音楽と映像が流れるといった作品を制作しました。この大会では5月下旬までに、企画書を提出しなければなりません。そのため、僕たちは3月からアイデア出しを始めました。アイデア出しは、良いアイデアが出なければずっと終われない作業なので、先が見えないところが辛かったです。企画書を書くときは、そのアイデアの魅力や実現性などをしっかりと伝えられるように何度も推敲しなければならないところが難しかったです。6月下旬に予選通過が決まり、それと同時に作品の制作を始めました。僕は、カメラで撮影している映像を解析して波紋を検出する箇所を担当しました。周りの明るさが変わったり、同時に波紋を発生させたりなど、様々な状況でも、正確に波紋の検出を行わせるのが非常に難しかったです。しかし、実験とプログラムの書き換えを何度も繰り返し、少しずつ改善して完成させることができました。頑張った甲斐があり、優秀賞を受賞できましたが、これは自分やチームメイトの頑張りだけではなく、部の先輩や友人などの、たくさんの人の助けがあったからこそだと思います。彼らには心から感謝しています。これからも、様々なコンテストに参加して、自分の能力を向上させていきたいです。



"proudly made by 100% STUDENTS"を目指して

ロボコン部部長
機械工学科4年 上野 虎太郎

去る10月9日、鹿児島県において「アイデア対決全国高等専門学校ロボットコンテスト九州沖縄地区大会」が開催され、久留米高専ロボコン部からはAチーム「GIEMON」、Bチーム「電機のかたまり」の2チームが出場しました。

この大会においてAチームはローム株式会社より特別賞を頂きました。この受賞は久留米高専にとって12年ぶりのことです。

私事ではございますが、小学4年生の時に高専ロボコンのテレビ放送を視聴し、自分もロボコンをしたいと思いここまで来ました。

ロボコン部に入部した時から今まで、決して楽な道ではありませんでした。しかし、1年の時に両チームともほとんど動かなかったあの時から、よく特別賞を頂けるまでになったと思います。これは私の2代前の部長の改革、先輩からの引継ぎ、現部員の努力が実を結んだ結果であると確信しています。3年間、機械加工を専門に行ってきた自分にとって部長という事務方への転向は非常に辛いものでした。特に女子学生の合宿が認められていない本校規定の改正要求は難を極め、未だ道半ばです。しかし部長の仕事は私を精神的に強くしたと思います。

最後に久留米高専ロボコン部の更なる発展を願い、また顧問、技術職員、事務職員、後援会、部員保護者などロボコンに関わったすべての方に感謝の意を表し、私のロボコン生活を締めることと致します。



第51回全国高等専門学校体育大会(夏季)の主な成績(8月17日~9月4日)

バレーボール	女子		優勝
水泳	男子400m自由形	3S 藤村 統太	第2位

第53回九州沖縄地区高専体育大会(夏季)の主な成績(7月9日~17日)

バレーボール	男子		優勝	全国大会出場
	女子		優勝	全国大会出場
ハンドボール	男子		第3位	全国大会出場
硬式野球			準優勝	
陸上競技	男子5000m	4S 古賀 哲徳	第2位	全国大会出場
	男子走高跳	1E 齋藤 龍洋	第2位	全国大会出場
柔道	男子90kg以下級	4M 田籠 侑典	第3位	
	女子48kg以下級	1C 山内 郁弥	第3位	全国大会出場
水泳	男子400m自由形	3S 藤村 統太	第1位	全国大会出場
	男子200m自由形	3S 藤村 統太	第2位	全国大会出場
	男子200m個人メドレー	2M 國分 雅斗	第1位	全国大会出場
	男子800m自由形	2M 國分 雅斗	第3位	全国大会出場
ソフトテニス	女子シングルス	2C 石井 沙弥	第3位	

第53回九州沖縄地区高専体育大会(冬季)の主な成績(11月12日~15日)

ラグビーフットボール			準優勝	全国大会出場
------------	--	--	-----	--------

第3回九州沖縄地区国立高等専門学校弓道大会(7月9,10日)

弓道	男子団体戦		第3位	全国大会出場
	男子個人の部	3A 山下 裕也	優勝	全国大会出場

平成28年度 アイデア対決全国高等専門学校ロボットコンテスト(九州沖縄地区大会)(10月9日)

久留米高専Aチーム	ロボット名: G I E M O N 4 E	小野 夏輝、3A 東海林 慶祐、3S 木村 介人	ローム賞
-----------	------------------------	--------------------------	------

第27回全国高等専門学校プログラミングコンテスト(10月8,9日)

テーマ:うゑぶ!	3S中島 暢哉、3S三田 皓介、2S堤 幸太郎、2S江島 樹、2S田中 志穂	優秀賞
----------	--	-----

第22回スーパーコンピューティングコンテスト(8月22日~8月26日)

チーム名:GhostDiv	3S菅野暁、3S前田南樹、1S榎原晃都	優勝
---------------	---------------------	----

日本数学コンクール論文賞(名古屋大学主催)(11月6日)

	1S川添 裕功	銅賞
--	---------	----

第8回坊ちゃん科学賞 研究論文コンテスト(高校部門)(10月30日)

論文名:すべて異なる確率・	3S白水 孝始	入賞
論文名:円周率 π の計算・	1C古澤 聖太	入賞

平成28年度(平成29年3月)卒業予定者の就職内定状況

平成28年10月 現在

機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科
三菱電機エンジニアリング株式会社 フロイント産業株式会社 MHP Sエンジニアリング株式会社 三菱重工株式会社 三菱電機株式会社 姫路製作所 富士重工株式会社 シチズン時計ニューチャリング株式会社 独立行政法人水資源機構 株式会社カンセツ ジャパン マリンユナイテッド株式会社 ヤマハ発動機株式会社 株式会社ホンダテクノフォート ダイジェット工業株式会社 株式会社マツダE&T 川崎重工株式会社 JXエンジニアリング株式会社 唐津バルブ工業株式会社 第一精工株式会社	独立行政法人国立印刷局 江崎グロコ株式会社 第一精工株式会社 ユニカムノルタビジネスソリューションズ株式会社 アドソル日進株式会社 西日本旅客鉄道株式会社(JR西日本) 株式会社マツダE&T 西部電機株式会社 曹印メグミルク株式会社 株式会社MJC 株式会社志磨テック 関西電力株式会社 三菱電機ビルテクノサービス株式会社 日産自動車九州株式会社 ユニグローバルエンジニアリング株式会社 ジャパン マリンユナイテッド株式会社 NSウエスト株式会社 西部電気工業株式会社	コミカミルノタビジネスソリューションズ株式会社 大電株式会社 NSウエスト株式会社 株式会社キューヘン ムラテックCCS株式会社 九州電力株式会社 株式会社マツダE&T キャノンシステムアンドサポート株式会社 株式会社ジェイベック 日信電子サービス株式会社 セイコーエプソン株式会社 ヤンマー建機株式会社 株式会社三松 株式会社ソフトサービス NTTコムソリューションズ株式会社 CTCシステムマネジメント株式会社 株式会社九州デン 三菱電機ビルテクノサービス株式会社 水ing株式会社 株式会社JALエンジニアリング ピクシブ株式会社 株式会社日本ビジネスエンジニアリング 本田技研工業株式会社 株式会社富士通ソリューションクリティカルシステムズ	中外製薬工業株式会社 森永乳業株式会社 神戸工場 旭硝子株式会社 昭栄化学工業株式会社 株式会社三井化学分析センター ニプロ株式会社 サントリークループ シオノギ分析センター株式会社 矢崎総業株式会社 宇部興産株式会社 三洋化成工業株式会社 第一三共プロファーマ株式会社 岩谷瓦斯株式会社 九州化学工業株式会社 株式会社日本触媒 アステラスファーマテック株式会社 株式会社テクノ月星 株式会社篠崎 JNC株式会社 水俣製造所 丸東産業株式会社 大日精化工業株式会社(2) 住友精化株式会社 ダイキン工業株式会社	DOWAサーモエンジニアリング株式会社 三井金属鉱業株式会社 東レ株式会社 新日鐵住金株式会社 日本精工九州株式会社 東洋製鐵株式会社 基山工場 日清紡レーキ株式会社 館林事業所 阪部工業株式会社 東レ株式会社 ヤマハ発動機株式会社 株式会社東研サーモテック 株式会社フルヤ金属 NOK株式会社 高周波熱線株式会社 パンパシフィック・カッパー株式会社 佐賀製錬所 磯部鉄工株式会社 株式会社アーレスティ 日本磁力選鉱株式会社 tanakaホールディングス株式会社 三井化学株式会社 大阪工場 東レ九州株式会社

平成28年度(平成29年3月)専攻科修了予定者の就職内定状況

平成28年10月現在

機械・電気システム工学専攻	ダイハツ工業株式会社、株式会社志磨テック、キャノンシステムアンドサポート株式会社、株式会社NHKメディアテクノロジー、株式会社トヨタプロダクションエンジニアリング、株式会社ワールドインテック、オークマ株式会社
物質工学専攻	旭化成株式会社、日東電工株式会社尾道事業所、三洋化成工業株式会社、北海道ガス株式会社、株式会社神戸製鋼所

平成29年度 久留米高専専攻科合格状況

学校名	受験者数					合格者数				
	機械	電気	制御	生化	材料	機械	電気	制御	生化	材料
久留米高専専攻科(推)	4	2		3	4	4	2		3	4
久留米高専専攻科(学)前期	7	10	8	6	6	3	8	6	5	4
久留米高専専攻科(学)後期	2	3	2		1	1	2	2		0
合計	13	15	10	9	11	8	12	8	8	8
						13				13
						37				26
						8				5
						58				44

平成29年度 専攻科 大学院合格状況

大学院名	受験者数					合格者数				
	機械・電気 システム 工学専攻	物質 工学専攻	計	機械・電気 システム 工学専攻	物質 工学専攻	計				
九州大学大学院(総理工)	5		5	4		9				
九州大学大学院(システム生命科学)		1	1		1	1				
九州大学大学院(システム情報科学)	3		3	2		2				
九州大学大学院(新領域学府)	1		1	1		1				
九州大学大学院(芸術工学)	1		1	0		0				
九州大学大学院(工学)	1	1	2	0	1	1				
東京工業大学(工学院)	1		1	0		0				
大阪大学大学院(工学研究科)	2		2	2		2				
筑波大学大学院(システム情報工学)	1		1	1		1				
北陸先端科学技術大学院大学	3	1	4	2	1	3				
長岡技術科学大学院大学	1		1	1		1				
早稲田大学大学院	2		2	2		2				
東京大学大学院	1		1	1		1				
奈良先端科学技術大学院大学	1	1	2	1	0	1				
合計	23	9	32	17	8	25				
重複者を除く実数	14	7	21	13	7	20				

平成29年度 本科大学編入学合格状況等

大学名	受験者数					合格者数				
	機械	電気	制御	生化	材料	機械	電気	制御	生化	材料
豊橋技術科学大学(工学)	3	12	1	1	2	1	8	0	1	1
長岡技術科学大学(工学)					1					1
九州大学(工学)	2	5	3	1	1	1	2	1	1	0
九州工業大学(工学)	1	2			2	1	1			2
九州工業大学(情報工学)	1		2		3	1	1	1		2
佐賀大学(理工学)	3	1			1	2	1			0
熊本大学(工学)	2	5	1		3	2	1	0		1
鹿児島大学(工学)	1	1			2	1	1			2
山口大学(工学)	1				1	0				0
広島大学(工学)	1	3			4	0	0			0
広島大学(理学)				1	1				0	0
広島大学(生物生産学)				1	1				0	0
広島大学(教育)			1		1		0			0
大阪大学(基礎工)			1		1		0			0
大阪大学(工学)	1	4	1		6	1	0	1		2
神戸大学(理学)				1	1				1	1
神戸大学(工学)				1	1				0	0
名古屋大学(工学)				1	1				0	0
名古屋工業大学(工学)			1		1		0			0
東京大学(工学)			1	1	2		0	0		0
東京工業大学(工学)			1		2		0	1		1
東京工業大学(生命理工学)				1	1				1	1
東京農工大学(工学)			1		1		1			1
横浜国立大学(工学)	1	1			2	0	1			1
横浜国立大学(理工学)				1	1				0	0
筑波大学(理工学)					1		0			0
筑波大学(情報学)			4		4		4			4
埼玉大学(工学)	1	1			2	0	0			0
千葉大学(工学)					2				0	0
奈良女子大学(理学)				1	1				1	1
東北大学(工学)	1				1	0				0
北海道大学(農学)				1	1				0	0
信州大学(経済)			1		1		0			0
室蘭工業大学(工学)					2					1
大分大学(工学)	1				1	1				1
関西大学(工学)	1				1	1				1
合計	21	39	17	12	14	103	12	16	8	5
重複者を除く実数	12	17	11	8	9	57	8	12	7	5
										37

本加通欄記載の集計数に差が生じている